

05.03.14

9:00~12:00

ロチェスター工科大学

## NETAC サービスについて

### 説明担当者(4名)

Pat(パット):NETAC プロジェクトコーディネーター(聴)

Denise(デニース):シニアプロジェクトアソシエート(ろう)

現在 PEN 関係の仕事を担当。以前は NETAC で勤務。

Desiree(デズリー):NYC サイトコーディネーター(聴)

NY 周辺も少しサポートしている

Jane(ジェーン):マサチューセッツ州のサイトコーディネーター(聴)

### 1. 協議事項の説明

PEPNet と NETAC の組織について

PEPNet-Japan 構築の際に検討すべき課題について

NETAC サイトコーディネーターの仕事について

理想的なサービスについて

PEPNet で作られた資料やパッケージの紹介

### 2. PEPNet の組織について

PEPNet は、アメリカを 4 地域に分割し、それぞれに地域センターを置いている。それぞれ予算も別で、独立して運営がなされている(アメリカ教育省の管轄)。ただし、PEPNet の目的は「大学に対してアウトリーチやテクニカルアシスタントを提供すること」であり、4 地域間で共有されている。地域によって、組織は異なる。2 地域 (NETAC・PEC) では 12-14 のサイトを置いて州ごとにサポートしている。それぞれの州は近接しているが、州によって土地の大きさや大学の数は全然違う。Ex)メイン州:非常に田舎!

一方の 2 地域 (WROCC・MCPO) では 3-4 のサイトを置いて、それぞれ 5~6 個の州をカバーしている。それぞれのサポートセンターは、聴覚障害学生に対してどのようにサポートしていいかわからない大学に対するサポート(アドバイス・トレーニング)を行う。4 つのセンターは年に数回集まって協議している。4 つの地域センターを設立した際、政府としてはそれぞれが独立して運営するものと思っていた。しかし、我々から 4 地域が共同して動くことを提案し、今のようない理想的なプログラムになった。現在 5 年間で 500 万ドルの助成を受けている(現在 2 期目の 4 年目)。初めは大学にだけ提供してきたが、それだけではなく、中学校や高校などにもサービスが必要であることに気づき、今は大学周辺の機関にもサポートしている。

### 3. NETAC の目的

聴覚障害学生に対して: 大学に入る機会を増やし、トランジションのサポートを行う

教職員に対して: 聴覚障害学生のニーズを理解し、どう接したらいいかを伝えていく。教員には、ちょっとした工夫で聴覚障害学生が参加しやすいクラスを作ることができるように (NTID が開発した ClassAct などを活用) 援助する。

サポートサービス: 聴覚障害学生サポートに関する Material を作成し、必要に応じて情報を提供する。

この3点により、聴覚障害学生の入学者数を増やし、在籍率を高め、卒業率を高めていく。

### 4. NETAC が成功を収めている理由

NTID には、たくさんのろう関係の専門家がいて、多くの質問・問題に対応することができる。

Central Office スタッフたちが優れた資質をもっている。

サイトコーディネーターの資質もあるが、その資質には次の3点が挙げられる。

- 1) 障害学生関係の勤務経験を持つこと、
- 2) その障害関係のうち聴覚障害学生関連のことを多く経験していること、
- 3) 聴覚障害に関する専門性の指導を受け、彼らのニーズを把握し、彼らの視点で物事を考えられること、である。

サイトコーディネーターのほとんどは、BA、MA 取得者で PhD を持っている人は一人だけ。それでも、こちら側に聴覚障害学生サポート関係の経験があれば有名な大学の先生達と張り合っていける。要するに、いい人がいることが仕事の質を決める。人と上手く関わる人を選んでいくことが重要であるということ。

### 5. サイトコーディネーターの選択方法

初めに各州を訪問し、障害学生サポートに経験のある人を探した。結果的に聴覚障害学生に多く関わってきた人が選ばれ、その人たちの多くは従来から、ある障害学生オフィスで勤務していた。多くの大学では、障害学生オフィスに一人の職員がいて、他のいろんな障害を扱っている。それゆえ、聴覚障害について知らない人もいたが、NETAC スタッフなど関係者と共同で聴覚障害学生サポートについて勉強し、応用して貰った(アメリカの大学で一番多いのは LD。ただ、聴覚障害学生サポートは、一番お金がかかる)。サイトコーディネーターが決定された後、その大学と契約(1年契約、毎年更新)を結んだ。ほとんどの場合、サイトコーディネーターは既に大学内で他の仕事を持っていた。そのため、何割かを NETAC の仕事に費やし、残りを大学の仕事に費やすなどの形とし、その割合にあわせて NETAC から給与保障を受けている。こうした契約は、大学と NETAC の契約になっていて、個人契約とは異なる。

っている。大学の職員として、大学に所属しながら NETAC の仕事をしている (NETAC が彼らのサービスを買っている形)。契約は毎年更新され、NETAC オフィスが、それぞれのサイトに対して、毎年 Basic plan を提示し、それを受け取ったサイトコーディネーターが各自、このプランをベースとして独自にやりたい内容を加えて計画を立てる。同時に、NETAC オフィスは目的を達成するための予算案を提示する。その後、NETAC オフィスで提示された内容を吟味し、翌年の契約を結ぶ。サイトコーディネーターの置かれている大学は、オフィススペースや電話代など基本的な設備だけを提供している。

Jane, Desiree は NETAC の専属。大学での仕事はない。

Jane:「以前は、大学で 50 人の聴覚障害学生に対してサービスを提供しつつ、他の多くの大学に対しても、サポートを行っていた。しかし、充分やりきれないので、今のように専属になることになった。大学側は、NETAC のサイトが自分の大学にあることを非常に喜んでいる。NETAC からいろんなメリットが得られるからだ。」

サイトコーディネーターの活動内容は、当初どの州も同じようなやり方でやっていったが、州ごとのいろんな事情にあわせて柔軟に変えていった。

## 6. NETAC オフィスがサポートしている対象

NETAC は、直接聴覚障害学生をサポートするわけではない。大学で聴覚障害学生サポートを行っている者を対象にして、サポートを行っている。初めは大学を対象にしていたが、今は中等教育レベルの機関にもサポートを行っている。それは、中等レベルで十分なサポートを受けてこなかった学生は、大学に入ってこれられないため。ただし、一番の重点は高等教育にある (連邦政府も中等教育レベルでのサポートを求めている。ただし、その連邦政府の考えは、PEPNet からのフィードバックによって問題を認識することから始まった。)

## 7. NETAC の活動

以下の活動メニューは全てまとめて実施するのではなく、大学の実態やニーズに応じて、必要とされる各メニューを選択して行っている。

1) ワークショップ、トレーニング

2) 地域での会議・講習会開催 (ex)「聴覚障害学生のリテラシー」など

3) 情報提供

- Basic academic preparation (読み書きそろばん)

- interpreting (いろんな通訳方法の情報や、どこでいい通訳を見つけてくるかなど)

- notetaking

- tutoring

- 情報機器の使用方法 (FM システム、赤外線補聴器、C-print)

- トランジッション (中学校・高校 ~ 大学、大学 ~ 就職)

4) One to One Consultation 相談活動 (対面、メール、電話等)

大学がはじめて聴覚障害学生を受け入れ、通訳の提供方法がわからないとき、サイトコーディネーターが大学を訪問して担当者と話をします。すぐ解決策を提示するだけでなく、他にもこういう方法があるというリストを提供する。

## 8. NETAC の活動がスムーズにいく理由は？

第一に、多くのサイトコーディネーターは、聴覚障害学生と長く関わってきており、なおかつそれぞれの州の事情をよく知っている。例えば、聴覚障害に関するどのような専門の人が、どこにいるか、など。

第二に、アメリカの大学には、障害のある学生にいろんなサービスをすでに提供してきた、という土壌がある。

第三に、アメリカには ADA がある。20 年前には聴覚障害学生はごく限られた大学にしか入っていなかったが、ADA ができて以来、他のいろんな大学に聴覚障害学生の進学が広がっていった。

### < DeCaro 氏による補足説明 >

NETAC センターは、大きなリソースセンターであり、コーディネートセンターとなっている。コーディネーターに対してリソースを提供する。コーディネーターは州にとってのリソースとなっており、問題解決者であり、アドバイザーになっている。また、問題解決を行う過程で出てきた課題や成果を、NTID にフィードバックしている。これを受けて NTID がさらにリソース開発を行う。つまり、センター→(リソース)→コーディネーター、センター←(提案)←コーディネーターといった構造になっている。

NTID では聴覚障害学生への教育に関するいろんな知識を持っており、RIT ではインテグレーション環境でのサポート内容について、十分な知識がある。ただし、相手にする大学はそれぞれ異なる環境にあり、違った問題を持っている場合もあるため、それらをサイトコーディネーターが発見してきて、NTID に提示してくれる。NETAC オフィスとサイトコーディネーターは、お互いに助け合う形で運営されているが、そもそも予算が連邦政府から来ているので、組織は非常に Formal な形式になっている。サイトが契約を履行しなかった場合には、契約を解消することもできる。

## 9. 大学独自の方針と NETAC の方針が違う場合は？

サイトコーディネーターにとって最も難しい問題。コーディネーターとしては、何かを指導するのではなく、それぞれの問題を解決するための関係作りに努めている。お互いのやり方を尊重しあえる関係を作ること、プロのコーディネーターとして認められるのではないかと思う。当初は、PEPNet の存在を各大学に知らせていくこと自体が非常に大きな課題だった。レター、メール、パンフなどで活動を知らせてきた。

Q. サイトコーディネーター業務にかかる予算は？

A. 州内の大学数によって異なるが、20000 ドル～90000 ドル(だいたい40000 ドルぐらい)

## 10. サイトコーディネーターの仕事

コンサルタントサービスを始める段階における業務内容

この段階では、まず Best practices を行う。最初に、大学がどの程度聴覚障害学生サポートのことを知っているのかを把握する。

次に、はじめて聴覚障害学生を受け入れる大学に対して、通訳者の確保の仕方や、活用の仕方を伝える一方で、サポートの質をより高いものにするためのモデルやサポートプログラムを提供する。

次に、これに必要な Material を作った。その Material には 3 点あり、1 つ目は、Tip シートである。聴覚障害学生への教育、教員、サービス提供者などいろんな目的に使用可能である。2 つ目は、Faculty Handbook である。教職員に対して、たくさんのインタビューを行い、その中から(サポートに関する)いい事例を取り上げてハンドブックとした。その内容は、例えば聴覚障害学生に資料を読む時間を与える必要がある、など。3 つ目は、Exhibit Materials で、展示用資料である。例えばパンフレットやサインなどがある。

現場の状況に合わせてサービスを提供していく段階

この段階では、次の Material を提供する。

- 1) Newsletter. イベント情報、新しいトピック、Web 情報等。紙媒体だけでなく、メール、Web でも配布可。これまでにもらっていたニュースレターを元に、NETAC に連絡してくることが良くある。
- 2) Online Training. ノートテイカー養成や、聴覚障害学生にどう関わるかを指導したりする。
- 3) Illustration of Success. 聴覚障害学生にロールモデルを示す。たとえば、就職して成功している聴覚障害学生の様子を見せるなど。

こうした Material があると、人がよってくる。一方で、NETAC が来ることを大学が嫌うこともある。なぜなら、大学が今までやってきたことに対して、あれこれ言われるのが嫌であること、もう 1 つは、初めて聴覚障害学生を受け入れてまだ何もできないので、サービスを強制されるみたいで敬遠されるからである。

データベース

NETAC の Web 上のデータベースに、これまでにサポート関係で会った人(現在は 25 名ほどのコンタクトパーソンがいる)のリストが掲載されているので、どこにいても参考になりそうな人を紹介できる。質問を見ると、これから作るべき Material がよくわかる。各サイトがどんな活動をしているか、月刊レポートを見て確認できる。年間レポートを作成する際に、これらの記録を参考にしてレポートが作れる。

## 11. NETAC はどうやってネットワークを作ってきたか

まず、もともとあるいろんな協会とコンタクトを取った。例えば、障害学生関係の会議等に出向いて行って、NETAC のことを伝えていった。多くの大学はいろんな種類の障害学生を受け入れているので、聴覚障害学生だけを対象にした大会には出席できないことがある。そのため、障害学生全般を対象にした大会（Ex. AHEAD）に NETAC 側が出向いて行って、いろんな情報を伝えて行くことが大事だと思った。それらの大会やイベントで NETAC の宣伝を行い、そこで名刺をもらったら、その裏にその人が抱えている問題を書いておいて、帰ってきてから必要な情報を送ることにしている。

サイトコーディネーターで担いきれない部分については、他の専門家の力を借りて講演やワークショップをひらいたり、Material を作る時に手伝ってもらうこともある。例えば、Access program のようなワークショップをひらいて、ALDs FM システム、ループシステムについて説明するプログラム（ALDs の専門家の援助で作った）。その他 ノートテイク、C-print、CART、Distance Learning など特定領域に関する質問に対して、コーディネーターが十分に回答できない場合は、専門家と質問者の間を取り持ち、答えてもらったりもする。実際は、通訳や字幕に関する質問が最も多い。

このネットワーク作りにおいて留意していることは、コーディネーターがすべて指示すると関係が悪くなるので、専門家を連れてきて説明してもらうというような方法をとることである。その方がよくわかってもらえる。特に、ろう者である専門家（特に Ph.D を持っている者）が来ると、大学にとってのいいモデルになる。しかも、専門家の話を、通訳を通して聞くことになるので、通訳の使い方も同時に理解してもらうことができる。

以下は、ネットワークの定着化をめざして行っている活動内容である。

- 1) Advisory groups: 年に 4 回障害学生支援サービス提供者やカウンセラーなどを集めて、サービスの内容について検討する。NTID で作成された新しい Material について検討し合ったり、個々のニーズについて話をしたりする。
- 2) Newsletters: NETAC ニュースレターと州内のニュースレターの 2 種類のニュースレターを作成し、各州に配布している。
- 3) istserver: ML を作って情報交換をする (PEPNet ML: 聴覚障害学生サポートについての議論をする ML。一人が質問すると、全米各地から答えが返ってきて、みんなでその内容を勉強することができる。/ 州内の ML: イベントのアナウンスをする)。
- 4) Workshops: よりフォーマルな形態で提供している。ワークショップ、トレーニング、講演会など。テーマは例えば、「聴覚障害学生に開かれた大学を作るために」「聴覚障害学生のリテラシー向上のために」がある。
- 5) SCS 研修・各地域での研修会。
- 6) フォローアップ: 一度情報を送った人に対して、その後必要な情報が入

ったら、その情報を提供する。

ここで、コーディネーターにとって本質的で重要な仕事とは、周りの人が持っている問題を的確に把握し、それにぴったりとはまる、シンプルで使いやすい良い Material を提供していくことである。もし、Material のない領域に関する質問があったときには、それに対応できそうな専門家を探して解決する必要がある。問題を解決してあげれば、大学側は NETAC の重要性をわかってもらえる。また、Peer の存在があれば、同じ問題を持っている人たちの集まりを持つことで、お互いに解決していける。NETAC とは、聴覚障害学生サポートに対して大きな関心を持っている人の集まり。あるいは、「ここがよくわからないから教えてほしい」と言える人の集まりなのである。